

た か だ が ん ぎ ど お

高田雁木通り地区

(新潟県上越市)

- 計 画 期 間 平成 18 年度～平成 22 年度
- 面 積 637 h a
- 交付対象事業費 1,539 百万円
- 市人口 185,892 人

ポイント 城下町高田の歴史資源を活かした
“まちなか回遊観光”の推進

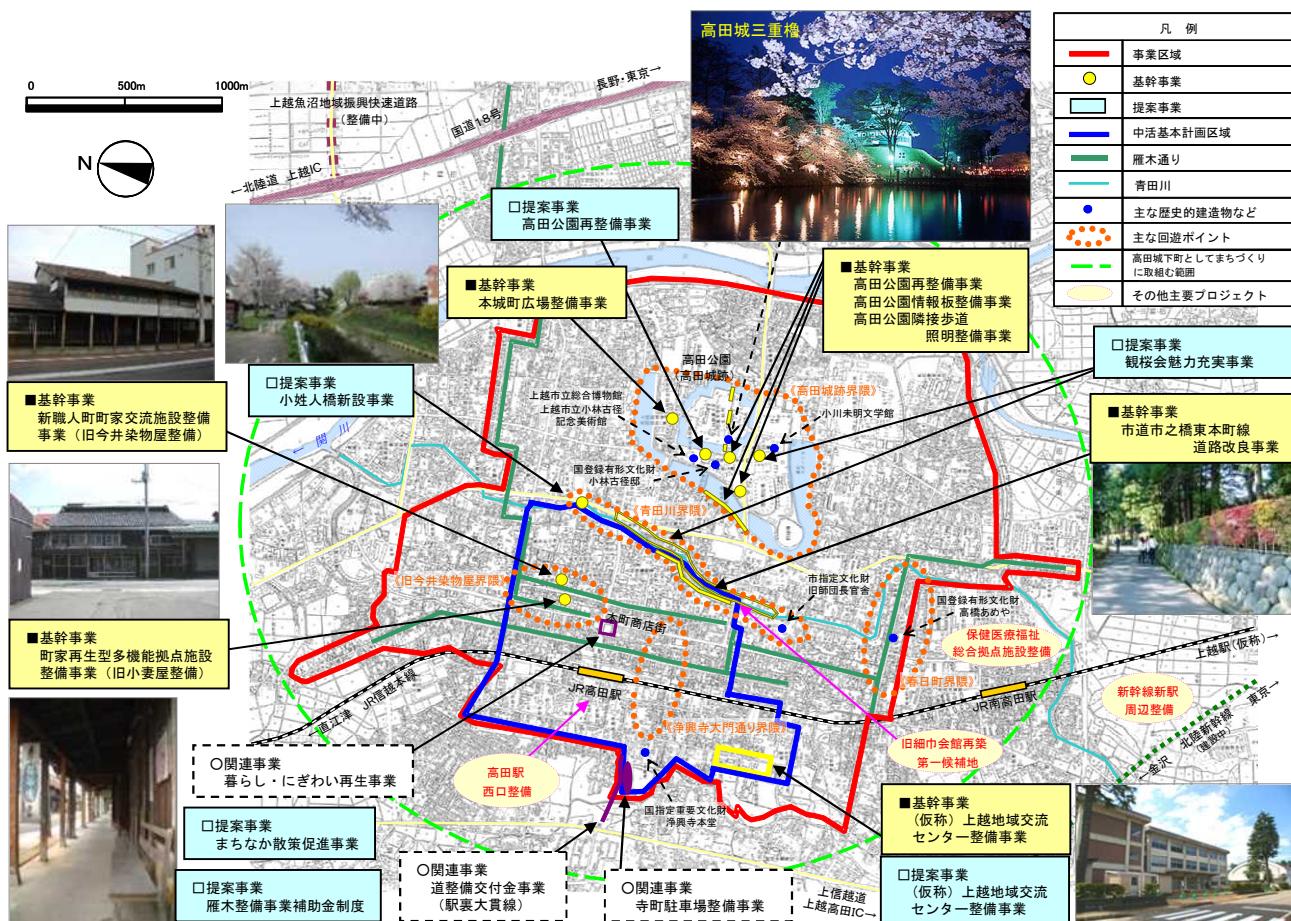
地区概要 “まちなか回遊観光”のための「点（拠点）⇒
線（ルート）⇒面（まちづくり）」を整備し、観
光化を一つの切口とした、高田ならではの総合的
な地域活性化を図る。

目 標 歴史的建造物などの多様な地域資源を活かした“まちなか回遊観光”の実現を目指す。

指 標 「高田城百万人観桜会」に
おける来訪者の回遊性を、当
該計画で整備する拠点施設へ
の来場者アンケート調査で測
定し、事業効果を具体的に把
握できるようにした。

拠点施設への年間来場者数	2,498 人 (H16) → 150,000 人 (H22)
観桜会会場との回遊率	48.5% (H17) → 70% (H22)
本町商店街との回遊率	23.5% (H17) → 70% (H22)
観桜会への来場者数	884 千人 (H17) → 1,000 千人 (H22)

事業内容 基幹事業（845 百万円） → 市道改良（幅員 6.0m、延長 512m）、公園（1カ所 48.1ha）、本城町広場
整備、まちなか拠点施設整備（2カ所）、地域交流センター整備
提案事業（694 百万円） → 雁木整備事業補助金、小姓人橋新設（延長 19.1m）、公園再整備（3,200
㎡）、他まちづくり推進に係るソフト事業



地区の現況と課題

中心市街地の空洞化が進行する中、地域の現状・特性を踏まえた観光化の実現が課題となっている。

課題 1：観光化を契機とした経済効果の創出

（既存観光行事の付加価値向上、観光客等の商業地区への誘導促進、ビジネス客などの観光客化、観光化を契機とした新産業の創出）

課題 2：高田らしい“まちなか回遊観光”の実現

（雁木通りの活用、点在する歴史資源の活用（点⇒線⇒面への拡大）、中心市街地一帯への経済効果創出、暮らしと調和した観光スタイルの実現）

提案事業の特徴

雁木整備事業補助金制度

私有地を利用した屋根付公共通路である雁木の特性をふまえ、沿道の市民自身の手による雁木整備を支援するため、提案事業として市独自の「雁木整備事業補助金制度」を創設した。

まちなか散策促進事業

当該計画で整備を行う市所有の町家について、整備以前にも暫定的な活用策として、町家公開やまちなか散策ミニツアーを開催し、既存の観光イベントやまちづくり活動と連動したまちなか回遊観光の機運醸成や仕組みづくりを行うことにしている。

計画策定プロセス

上越市創造行政研究所における調査・研究

市の組織内シンクタンク「上越市創造行政研究所」において、平成 13 年度及び平成 15 年度に「歴史的建造物の保存と活用に関する調査」を実施した。当該調査の実施に当たっては、市民研究員制度の活用や、東京大学大学院との連携、市民向けシンポジウムの開催など市民や専門家との協働により実施した。

歴史的建造物を活かした高田市街地活性化戦略

平成 16 年度に、平成 26 年の高田開府 400 年を目標年次とした地域活性化戦略を市民や専門家から提案を受けた。都市再生整備計画では、同戦略のうち、主として観光面でのプロジェクトを重点的に推進することになっている。

歴史・景観まちづくり推進室の設置

平成 16 年度に、歴史的建造物を活かした高田市街地活性化を総合的に推進・調整する部署を企画部門に設置している。同室では市民、まちづくり団体、専門家などとのネットワークを構築し、多様な担い手との協働による事業推進を図っている。

※平成 20 年度から組織改変により文化振興課が同室の業務を引き継いでいる。

市民と行政との協働のイベントの発足

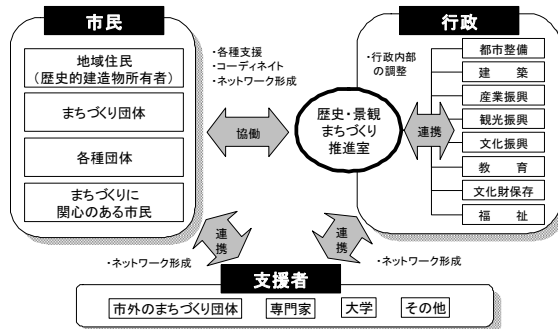
まちなか回遊観光を市民と行政との協働で推進するイベントの一つとして、平成 18 年度から「越後高田町家三昧」をスタートしており、まちづくりの機運は年々高まりをみせている。



▲明治築の商家を改装した町家交流館「高田小町」（写真上：商家の雰囲気を残した外観、写真下：吹抜け空間）



▲雁木整備事業補助金の活用事例



▲市民と行政との協働によるまちづくり